

の爲めに、特に地方長官をして講習員を推選せしめ、十日間の講習會を開かんとして居るのである。斯の教育に従事し關係するものは、茲に新たに其の興味と熱心とに對する國家的背景を保證せられ

## 更に加へて

文部省は今年に於て特に保育講習會を開催し、我國保育界の内容的補充の爲の新らしき計畫は方に實行せられんとして居る。吾人斯界の爲めに誠に之れを喜び感謝するのである。而して吾人は此の喜びと感謝に促されて、尙ほ進んで幾多の望蜀の感を抑へ得ないのである。喜悅は次の喜悅を求め、満足は次の満足を求めるのが心理の自然とすれば、吾人の此の欲望も強ち勝手の我儘ではあるまい。

それは他なし、保姆養成の問題と、保姆待遇の問題との解決である。之れは古い問題で始終新しい問題である。昔から何人も心づき、幾度も主

たともいふべきである。吾人は我國幼稚園教育界の最も大いなるよろこびの一つとして、此の第一回文部省保育講習會を迎えるものである。

張せられて、とう／＼昨年迄ついで、扱て改めて全國幼稚園關係者大會に於て、討議せられ、決議せられ、答申せられ、建議せられたる問題である。

元來幼稚園保姆に關する現下の問題は、二つに大別することが出来る。一つは形式的問題で、保姆資格問題、保姆待遇問題、等が之れに屬する。

次は内容的問題で、保姆養成問題、保姆學力補充問題等が之れに含まれる。而して此の形式内容兩問題は、實に相關聯し、相交互して離れ難いものであるが、若し、實行上いづれをか先きにしなければならぬとすれば、吾人は内容問題を先きとす

る。又内容問題の中で、保姆養成と學力補充と、  
いづれを先きにすべきかといへば、差當つての策  
として先づ後者を撰ぶ。文部省當局が今夏の保育  
講習會開催も、蓋し恐らくは此の意に出でたもの  
であらうか。いづれにしても、吾人は此の現在の  
保姆の學力補充の必要を急務とする點に於て、文  
部省當局の舉に全然同意するものである。

しかし、吾人は更に加へて希望せざるを得ない。  
保姆の學力補充の更に溯つて保姆養成問題の實現  
に至らんことを。更に相伴ふて保姆資格問題、保  
姆待遇問題の解決と實現とに至らんことを。之れ  
當然の順序にして、又當然の結果である。更に進  
んで言へば、問題は二となり四となるも、つまり  
は一個の問題である。

幼稚園關係者の苦き經驗は、いつも之等の問題  
に就き建議して、いつも結果を見得ないことであ  
つた。昨年の全國幼稚園關係者大會に於て、建議  
の一部(保姆養成問題)は答申の形となつた。即ち

文部省は幼稚園問題に對する從來の受動的位置か  
ら發動的位置に轉じたのである。そこに全國幼稚  
園關係者の至大の望は囑せられ、其の實現が今度  
こそはと期待せられて居るのである。今夏の講習  
會に於て、問題の一端は實行となつて、文部省か  
ら實現せられたのである。昔の當てのない期待、  
手かゝりのない要求とは大に其の趣を殊にして來  
た譯である。吾人の要求が更に長驅して問題全部  
の統一的解決に急ぐは、決して無理な次第では無  
いのである。

保育講習會は今夏を第一回として、將來も亦引  
續き益々有効に開催せらるゝことと信ずる。而し  
て現在の我幼稚園教育者は、不斷の向上心と努力  
とを以て、大に內的に充實せられてゆくことと信ずる。  
しかも、年々新らしき若き保姆は補充せられなけ  
ればならない。又新らしい幼稚園は年を追ふて増  
設せられなければならない。それには新らしき保  
姆が任用せられねばならない。斯くて保姆養成は

必ずしも將來の爲の準備には限らないのである。且つ、斯くの如く高く養成せられたる保姆の資格と待遇とは自然の結果として高められざるを得ない。高められたる資格と待遇とは、高く養成せられたる人々が容易に應じ得る。それ等の人々の増し加ふることによつて、我國幼稚園の知識水準

## 自由主義の誤解

近來自由主義に就きて大分論せられるやうになつた。けれども之は誤解を招き易いからして今日は其の眞髓を談さうと思ふ。

學術的に謂へば自由主義の根柢は、『凡て生物は自己發展能力を有す』といふ點に在る。生物の最も低級なるものは勿論『アメーバ』であるが之より進化して吾人人類の如き最も高級なるものとなる。故に吾人の祖先は實に『アメーバ』である。

は自ら高められて来る。其の高められたる水準に向つて、現在の保姆は自ら己を高めずには居られない。

吾人は文部保育講習會を迎ふるの喜びと共に、更に加へて、之等のことを當然に希望せざらんとするも得ない。

日本女子大學校附屬  
小學校主事文學士

河野清丸

さて『アメーバ』が段々進化發展して纖毛虫鞭毛虫の如き滴虫類より放散動物・軟體動物の如き無脊椎動物となるのである。加之近時バッテン教授は『オストラコダーム』といふ動物の化石を發見し、之を以て（蜘蛛類と有脊椎動物との中間にありて兩者の連續をなすものとして居る。斯くして蛇、蜥蜴、鱷、鳥類、獸類、人間といふやうに連綿として進化し來た事は争ふべからざる事實とな